

【3】 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

「格差社会」という言葉が一般的に使われるようになってから、もう10年以上が経ちます。2000年代後半に、若者世代で経済格差が広がりました。2019年には、20代後半～40代前半で就学や就職をしていない人びとが約70万人いました。これは、1990年代の不況や、2008年に発生した、投資銀行が経営破たんし追いこまれ、世界に経済危機をもたらした（1）ショックなどにより、就職ができなかったために起きた問題です。2019年8月に兵庫県宝塚市が、30代半ば～40代半ばまでに限定して3名の職員を募集したところ、1800人余りが応募してきたことは、これらの問題の根深さを感じさせます。

若者世代の貧困は、結婚しない人や結婚しても子どもをつくらない人の増加をもたらし、(A)少子化の一因となります。また、若者世代の貧困は、彼らの子どもの貧困につながることもあります。日本に住む17歳以下の子どもの約7人に1人が貧困に苦しんでいて、経済的な理由で大学に進学できないなど、(B)貧困の悪循環におちいつています。貧困に苦しむ人びとは、前に述べたような(C)経済不況が起こってしまうと、簡単にその生活を壊されかねないのです。

男女間の格差も見のがすことができません。日本では、「男性は仕事、女性は家庭」というような性別の役割意識がまだまだ根強く、現在でも、(D)男女の労働格差については多くの改善の余地が残っています。

格差は、都市と地方にもみられます。都市に人口が集中する一方で、地方では過疎化により若い働き手が減少したり、人口の50%以上を65歳以上の高齢者がしめる(E)限界集落と呼ばれる地域も出てきています。この状況が続くと、地方自治体の収入の減少につながり、自治体の維持が困難になる可能性があります。こうした状況を解決する方法の一つとして、自治体では労働力を確保するために、外国人労働者を積極的に受け入れる動きがみられます。そのためには、互いに(F)相手の文化への理解や配慮が必要となっていきます。

世界が急速に発展し、豊かになっていく一方で、そのひずみとして様々な課題が発生しています。これからの私たちには、それらの課題を発見して十分に理解し、解決する方法を考えていく力が必要となるのです。

問3 下線部(B)を止めるためには、どのような政策が必要だと思いますか。次の図を参考にして、あなたの考えを2つ説明しなさい。

